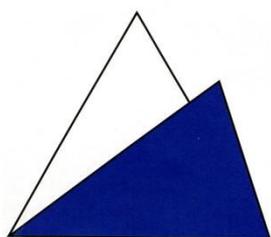


会員と千葉県連盟をつなぐ

# ちばニュース

2020年 7月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federation

2020年 7月1日発行 通巻327

**コロナの危険は続いている**

**感染しない・させないで！**

## 7月号目次

・ 目 次	2
・ ハイキング委員会・リレーエッセー	3
・ 房総の山とおきの話	5
・ 全国連盟60周年レセプション案内	10
・ 記念講演案内	11
・ 県連予定表	12

### 表 紙 説 明

ブロード・ピーク（8047m）世界12位

パキスタンと中国の国境にあり、すぐ隣にはK2がそびえている。元々はK2の隣にあるのでK3と呼ばれていたが、山頂の幅が1.5kmもあることから「広い頂」の意味があるブロードピークと付けられた。初登頂は1957年・オーストラリア隊、日本人の初登頂は、小西浩文・山野井泰史ら8人が登頂した。

写真は、2005年6月 パキスタン・バルトロ氷河コンコルディアです。3月号表紙のK2と同日撮影です。

お茶を飲みながら、8000m峰、7000峰を眺める、至福の時間を3日間過ごしました。

——編集者——

## 「山行記 丹沢山」

ハイキング委員 深草 茂美(岳人あびこ)

はじめに

毎年1回担当が回ってくるリレーエッセイ執筆。一作年と昨年2回は山行を題材にしたエッセイを書いていなかった。そこで、今年は5月下旬に所属会主催の“大杉谷山~日出岳”山行に参加を予定していたので、これを題材にしようと思っていた。ところがコロナ禍の影響により計画が中止となってしまった。結局、天候やコロナ禍の為、計画していた山行が次々と中止となり、気が付けば、今年参加した山行は2回だけとなっていた。今回はそのうちの一つ、2月に行った、初めての丹沢山系の山行について薄れる記憶をたどりながら書くことにした。

本山行は女性3名、男性3名の6名が参加する。所属会主催の山行である。行程は、大倉尾根から塔ノ岳を経て丹沢山山頂まで歩き、山頂脇のみやま山荘に泊まる。翌日は山荘から本間ノ頭、高畑山を経て宮ヶ瀬湖の三叉路バス停にでるコースである。

2/20 (木) 1日目

自宅からJR、小田急線、バスを乗り継いで登山口のある大倉バス停に到着した。バスから降りると思いもよらず暖かった。家から着けてきたコロナ感染予防のマスクを外し、ヤッケを脱いで登山道にむかった(9:00発)。舗装道路を少し歩いて登山道に入った。木造の階段が続く長い道が所々にあった。木造の階段は、私にとって歩幅が合わないのか、歩きづらかった。花立山荘に到着(12:00着)。平日なので山荘は開いて無かった。山荘の前の広場で昼食を摂った。ここは晴れていれば、富士山の展望を楽しめる場所だとのことだが、丹沢山系の山並みは見えるが、その先は雲に覆われていた。歩き始めは青空が見えていたのに、少し残念な思いがした。それでも久しぶりの山歩きは気持ち良かった。昼食後、再び木造の階段を歩き塔ノ岳に到着した(13:00着)。空模様は相変わらずで、ここからの展望もよくなかった。風が吹いてきて寒くなったので尊物小屋に入りヤッケを着た。山荘の主人から、一人一品の注文を要求されたのでコーヒを飲んで一休みした。雪が溶けて泥がついた木道を、足を滑らせない様に注意しながら登り下りした。竜ヶ馬場の手前あたりで、両太ももの筋肉をつってしまった。冷えのためか、久しぶりの山行で、木造の階段をハリッキキって登った為か、加齢のせいかわ、コムレケケア飲み、腿にホカロン貼り、一休みして、ゆっくり歩き出した。丹沢山山頂に到着する山頂周辺はまだ薄く雪が残っていた。みやま山荘に到着、靴についた泥を落とし山荘にはいた(15:20着)。

## 2日目

みやま山荘を出発する（7:00 発）。もう一度山頂まで行って、昨日濃霧発生の為見合わせた集合写真撮影後、下山を始めた。登山道の両端には少し雪が残っているが、道にはほとんど雪は無かった。山頂を少しおりはじめたところで、朝靄が晴れてきた。すると枝先に真っ白な花を咲かせた様な霧氷をつけた木々が、山一面を覆う美しい光景が目の前に広がった。白い花が咲いた様な霧氷のトンネルをくぐり抜ける様にして歩き本間ノ頭に到着した（9:25 着）。本間の頭を過ぎると、打って変わって暖かい日差しが射し、早春の陽だまり山行のようであった。高畑山で昼食休憩（11:30-11:50）後一基に宮ヶ瀬湖の三又路バス停迄下りた。

### 終わりに

1日目は、雪や雨に降られなかったが、雲が出ていたため、富士山も見る事が出来ず展望を十分に楽しめなかった。しかし2日目の霧氷の中の下山は感動した。その為、当山行は思い出深い山行の一つとなった。今回見ることが出来なかった、丹沢山系からの富士山も見てみたい、秋の紅葉、春の花々も美しそうだ。今後はそれぞれの季節に丹沢山系の山歩きを楽しみたいと思った。



### 編集者よりのお願い

ハイキングリレーエッセーは、ハイキング委員が順番で投稿しています。コロナの影響もあるのですが、最近投稿がとて少なくなっています。山の会の機関紙に、山の記事が無い事をとても辛く感じています。

会山行、個人山行、思い出の山行、もう一度行きたい山、下山後の温泉、山行お楽しみグルメ等を紹介して下さい。（とっておき情報を歓迎）

ワードA-4・明朝 12p・写真あれば添付・1ページ程度、  
でメール添付で送付して下さい。

◆ 送り先（機関紙委員会：3名 です。）

- ・種蔵 ; tanekura@gmail.com
- ・戸石 : m-toishi@min-iren-c.or.jp
- ・広木 : [danphiro@jcom.zaq.ne.jp](mailto:danphiro@jcom.zaq.ne.jp) 問い合わせをお願いします。

## 「房総の山」 としておきの話・あちこちの想い（最終）

鶴澤 喜久雄（ふわくハイキングサークル）

### (16)野々塚山 268.1メートル 大多喜町・勝浦市

大多喜町の弓木、平沢部落には、”大蛇”伝説がいきづいている山の集落です。前記の田代大滝にも上流の内梨の滝(有池娜思の滝)にも兜野山(別名蛇喰嶺とも)大蛇・龍神伝説が残っています。

これらの谷や山の先に一際大きく構えている山が野々塚山です。268.1メートルのこの山もふもとにすむ大蛇とその化身である龍神様で、日テリに困っている山村の民を救ったという、降雨伝説が残っています。山頂には北側の花生ゴルフ場入口から登ります。(南側は勝浦の大森から林道伝いに登山路もある)。山頂には法雨山大明神の石塔が建っています。碑文を読むと、平沢村、弓木村、田代村、山頂には法雨山大明神の石塔が建っています。碑文を読むと、平沢村、弓木村、田代村、宇藤木村の四ヶ村の人々が、平沢村にあった妙巖寺の日護住職に救済を頼み降雨に恵まれたとの意味が読み取れます。この石塔の際には二基の電波塔が建ち山頂一帯にはアカマツの木の採園になっていました。

頂きからの南面は勝浦の灯台から太東岬までの大海原、西側には黒木の繁る麻綿原の山との大展望は第一級のものがあります。大森からの林道から登れる小路は楽に山頂へ至る道としておすすめでしょう。

### (17)請雨山 320メートル 鴨川市

松下画伯がうたいおどる”与作は木をきるへいへいほー・へいへいほー”山でのお月見宴会といえ、この請雨山を思いうかべます。その人は、ふわくのサークルの中で古参の部類に入ります。

国道410号線の君鴨トンネルの上に構える山、その鳥居から眺める長狭の谷とその先に立つ房総の最高峰の愛宕山の景観はピカ一です。

この大展望の場所で一大宴会を開いてみたい、というのがふわくサークルの宴会好きの長年の夢でした。その願いが実現できたのです。企画した原地宏幸さんと、う沢で麓に居る神社総代を訪ねて”

月見の宴”での使用をお願いして承諾を得ました。

この家は、長狭街道沿いにある八幡神社の流鏝馬行事や

春日神社の鞆鼓舞い行事の世話人もやる人で、奥座敷には諸行事の絵も飾ってある位の人でOKをもらえました。当日は、ブルーシート、ロープ、木炭、スコップ、大なべ、大餅網、等々をそろえて、仮泊のテントも持って、背梯子姿で登りました。国道からの登りも林道からの昇りも苦になりません。展望のきく鳥居の下にシートを敷き、本殿の上の段の広場にはテントを建て仮泊所を造り、簡易トイレも建てて宴会が始ま



ります。鉄板の焼肉、金網での干物焼きも待てなくて酒盛りが始まります。渡辺千代子さんの山小屋の灯で始まり、モズが枯れ木で、の歌など文化度の高いものからスタートし、

炭坑節の歌とおどり、” 与作のうたで大盛り上がりしました。

松下画伯のおどりで、おしっこをもらす人も出る始末。

これは言いすぎかな、いや白状しないだけでホントです。とにかく盛り上がりました。

翌日の朝、下の世話人の家に伺った時”  
すごい盛り上がりで、  
あんな会なら入りたかったヨー” と言われました。  
きちんと後始末をしてきてよかったと、  
改めて思いました。



#### (18)香木原峠 220メートル 鴨川市・君津市

かつて単独行で通ったことのある香木原峠を” 自然保護運動で大勢で歩くことになるとは思っても見なかったことです。

鴨川有料道路の西側の照葉樹の樹林、286ヘクタールを開発して巨大なメガソーラー発電所を造る計画案が舞い込んできたのが2018年の春のこと。この年の6月に現地調査のためのクリーンハイクを金山ダム付近で行いました。次の年2019年の一月に第二次調査の為に鴨川清掃センターから香木原峠まで歩いて現地を見ることにしました。

この計画はふわくサークルが七里川追原を歩く年間計画となっていたものを、この開発予定地を調査する事の方が先だということで計画を変更して調査山行となったものです。

鴨川駅から清掃センターまで入るのに” 日東交通” が「その計画のためなら、マイクロバスを走らせてあげる」との好意が寄せられました。結果的には、マイカーに分乗して入ることになりましたが、三十人近くまでふくれあがりました。

鴨川駅裏で「メガソーラー建設の中止を求める会」の今西徳之事務局長から計画の概要を聞きました。計画地は林野庁から” 山地災害危険区域” に指定されており、急峻な斜面を切り崩す工事は災害を引き起こし、銘川と加茂川の清流を汚し、鴨川湾の漁業にも悪影響を与えることは必至だと事前に学習をして現地に入りました。

鴨川清掃センターから香木原峠までの古道は戦国時代には安房から久留里城へぬける軍用道路で、この峠には里見氏が番所を設け、西側にある小町峰峠には川越の殿様が番所を造る重要な山越えの要所でした。

センター先にある用水堰の先からは、街道の石積みものこり石仏もあって古道そのものです。

左や右に曲がる坂の先に素掘りのトンネルが残っています。ここで昼食とし、



峠までには有志だけで行ってもらいました。

トンネルや峠まで右側(東側)はマテバシイやタブの木の 香木原峠  
ものです。この森の木を倒し、五万枚のパネルを敷く開発は、まさに自然破壊そのものだと認識が一致しました。自然とともに郡界尾根につけられている国体登山コースも護るべきだと確認し合いました。

これらの現地調査を基に、ふわくサークルは三月の定期総会でも鴨川メガソーラー開発を中止させることを確認し、山岳自然運動とすることを決めました。

### (19) 高鶴山 326m 鴨川市

国道128号線の長いトンネル

(嶺岡トンネル)を抜けて最初の信号機が高鶴山のある曾呂谷への入り口になります。この入口から見た形の良い山が高鶴山で、県内の山で独立峰の端正な形では、ピカーの山です。曾呂谷に沿って谷間を登って行くと下神社の大鳥井に出会い目の前が高鶴山です。



端正な独立峰の高鶴山

鳥居をくぐり山村を2キロ進むと大イチョウのあるお寺に着き登山口の案内標識が立っています。

夏ミカン畑の中30分で峠へつきます。峠の左側の山が大峰山で古峰神社が祀られています。天狗伝説の古峰ヶ原講につながっています。

高鶴本峰は右へ進むとおよそ30分で見晴らしの良い山頂に出ます。

山頂の高みの手前の小さな祠には天狗面が奉納されていて、天狗信仰が息づいています。南方には花嫁街道の烏場山がすぐそば、北面は峰岡山系の愛宕山と伊予が岳がはっきり眺められ独立峰の面目躍如です。

この展望の良い山頂で、2019年の3月に転落事故が起きました。ちば悠遊会のメンバーが月例登山をして山頂で昼食をとっていました。リーダーが山口の堰へ下ろうよと声をかけ立ち上がった時、よろけた1人が腰を上げ1人にぶつかり、三~四m転げ落ちました。

バツサイした木立のカブにはさまって止まったのですが、脇腹を打ちつけ肋骨骨折をしました。自力で下山できないので責任者が鴨川消防署のレスキュー隊に救助を要請し出動してもらいました。あいにくの鴨川病院は休みだったので君津中央病院に連絡してドクターヘリの出動となりました。病院に入院して診察、肋骨七カ所の骨折で一本が肺をやぶっているのが入院の処置となりました。

事故を起こした山頂は、転落するような場所ではないのですが、不用意にぶつかりたりということが原因でした。事故発生後すぐに消防に救助要請したことも結果的に適切でした。

(何回も登ったことのある・よく知った山)でも大事故につながる事もあることを

教えてくれています。

(20) <sup>あますらせんげんやま</sup>天面浅間山 131m 鴨川市

鴨川の仁右衛門島を過ぎて天面湾に差しかかると湾の右上に白い岩山が海面から直立して登ってみたい山でした。はじめて試登したのは滝探しした時でした。

天面湾の一番奥まった所の小さな流れが流入していました。見ると国道のすぐ上に滝が落ちています。

これを登ってみるとその上が連続して滝になっています。地元の人「昔の行場だった」と教えてくれました。上の滝には小さな鳥居と滝に不動像が安置されています。急な階段が刻まれていて山の中段にでました。右手の崖の上をまいて登ると猿の狛犬が左右に安置されていて浅間神社が建てられていました。天面神社の前には横穴の古墳穴もあって明らかに神起こしの山です。下山して聞いてみると漁師のアテ山だったといい、六月一日の浅間さまの祭りの日には船留めをして山開きをやり、海上安全を祈願したそうです。大昔の白い岩山に鷹が住んで鷹ノ巣山の呼び名もあるそうです。



(21) 米沢の森

162m 市原市

四ヶ月にわたる腰の故障（脊柱管狭窄症）でウォーキングのできなかつた私にとって、どこまで回復したかを試すつもりでの参加となった市原市の米沢の森です。

ふわくハイキングサークルにとって定期総会後の第1回例会で、高齢者がどの位参加してくれるのかを計る歩きでもあって、興味ある企画でした。

結果は八十代が4人の申し込みもあってコース設定は成功したものでした。

登山口のある米沢の羽賀堰に車を置き、

原地雅子さんのガイドで、私と妻の幸子の3人の出発。登山口には早くも2本のギンランが咲いていて行先の良いスタートになりました。山に入る廃田のワキには鉄道で使ったマクラ木が敷かれ木道となっていてこのコースを整備してくれたボランティアの心が見て取れました。ゆるやかな登り二十分で中段に出ます。ここには桜の古木が立っていて【一本桜】と呼ばれている処です。見た目には四百年くらいの歴史がありそうです。この付近にはキンラン・ギンランが二・三株と群生していて、みんなを喜ば



せました。

ほとんど登り下りのない平らな山路が三叉路になっている所に出ました。

【金堀古墳】の案内板があったので、行って見ると、直径三十mクラスの古墳でした。この周りには何本ものキンランが咲いています。そこに太めのエビネランが二株あり感激です。山頂が確認できると【腰の故障】も安心できました。山頂の下にジグザクの急登がありますが、「ひとふんばり」登り切りしました。

ここは草の刈られたきれいな芝生です。「いぬふぐり」の歌に出てくる風景です。ここにもエビネランも咲いていました。鉄搭用（電波発信）の蓄電池小屋を回ってみるとスマレ、タンポポ、ヒメオドリコソウの花々です。ここの広場に手作りのベンチも置かれているので、その周りにブルーシートを広げて昼食の場を作りました。

前日に地元の市原勢の原地宏幸さん、雅子さん、児玉正祐さんが手作りしてくれたトン汁が担ぎ上げられていました。ガスコンロを出した処で後発組が着きました。

高齢の菊池カンさん、崎山恵司さん、新入会員の川口晏宏さんも元気です。会員揃ったところで中味の濃い熱々のトン汁と昼食です。

休み時間利用して「晴れていれば太平洋に突き出ている太東岬もみえるので、初日の出を見に来る人もいます。北方には筑波山やスカイツリーも眺められます」との説明もありました。正に低山バンザイ、里山バンザイの山です。来た路で下山することになりましたが、ここで班編成を解いて、気の合う人同志でゆっくり降りる事にしました。

私は先頭に行くサブリーダーの児玉さんの後に位置とりして、すぐ横を崎山さんがついてくれました。その崎山さん「う沢さんの歩きは元以上の歩きになったね」の評価。「全コースがフカフカな道、身体にらくなんです。との応答。頭上には芽をふいたばかりのクヌギやコナラの木々で森林浴のできるコースです。

今回のように花の咲く春もよいけれど、秋のドングリひろいの時も歩いてみたいこのコースです。

中段の小休止の時リーダーの原地宏幸さんが「私の育った山です。山頂は屋根村の萱を共同で取った萱場の山で薪を集めました。山から湧き出る水はきれいでそのまま飲みました。この湧水の流れる小川はミヤコタナゴも居て、この水を集めた養老川でコイやウナギも沢山取れました。私にとって童謡の【ウサギ追いし】の処です。

「大多喜城～鶴舞城～猪鼻城～江戸へとつながる江戸道でもあつたのです」と歴史の話も大変為になりました。

「房総の山」とっておきの話・あちこちの想いは、ふわくハイキングサークルの会報に連載されていきました。鶴澤さんのご厚意でちばニュースに4月号から連載しました。鶴澤さんならではの視点で、山と地元との関わり、歴史、行事が紹介されています。何気なく眺めていた山が、その集落にとって重要な役割を担って来た事、それを代々受け継ぎ守っている事を知ってほしいと思います。

県連50周年記念行事「房総の山50選」を選定し、各会で取り組みました。今回の掲載にも50選の山が紹介されています。記念行事山行以降登っているのか気になっていました。今回の連載を読んで、ふるさと房総の山を見直して再挑戦としては如何でしょうか。

## 日本勤労者山岳連盟 創立60周年記念講演会・レセプションのご案内

夏山シーズンを迎えましたが、今年は4月に緊急事態宣言が全国に発令され、いつもと違う日常となっております。皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか？

さて、私たち日本勤労者山岳連盟は、1960年5月12日に創立され、本年60周年を迎えました。この間、登山・ハイキングが健康で文化的な生活のひとつであり、平和で民主的な国民生活に根ざしたスポーツ・レクリエーションとして、普及し発展させることを目的として活動してきました。これは、多くの方々にご支援とご協力をいただいたおかげと、深く感謝申し上げます。

今後の活動の飛躍と登山文化発展のために、節目の年をご一緒に祝いたいと思います。ぜひ、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

2020年5月30日

日本勤労者山岳連盟 会長 佐々木功

### 記念講演会

日 時 2020年11月14日(土) 受付開始 12時半 開会 13時 終了 17時

会 場 神田明神ホール

〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-104-19 電話 03-5285-1121

会 費 1,000円(記念レセプション参加者は無料)

### 記念レセプション

日 時 2020年11月14日(土) 受付開始 17時半 開会 18時 終了 20時

会 場 ホテル東京ガーデンパレス

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-7-5 電話 03-3813-6211

会 費 10,000円(記念品代を含む)

振込先： 郵便振替口座 口座番号 00140-5-563328

加入者名 労山行事会計係

郵便局(ゆうちょ銀行)以外からの振込は 金融機関名 ゆうちょ銀行

店名 ○一九 預金種目 当座 店番 019 口座番号 0563328

詳細・問い合わせ：

全国連盟事務局 [jwaf@jwaf.jp](mailto:jwaf@jwaf.jp) : 03-3260-6331

千葉県連会長 広木 国昭 : [danphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp)

## 日本勤労者山岳連盟 創立 60 周年記念講演会

### 「K2～シリアへ」

—8000mのビバークから見てきたもの—



小松 由佳  
(フォトグラファー)



#### プロフィール

1982 年秋田県生まれ。2006 年、世界第二の高峰 K2（8611m / パキスタン）の南南東リブルートより日本人女性として初登頂。2006 年植村直己冒険賞受賞。次第に風土に生きる人間の暮らしに惹かれフォトグラファーを志す。2012 年からシリア内戦・難民をテーマに撮影。シリア難民の自立支援活動も手がける。

HP：「小松由佳 ウェブサイト」で検索

### 「山岳保険の現状と労山基金」 川嶋 高志（日本勤労者山岳連盟 事務局長）

登山者にとって本当に必要なものは何か？16 年間にわたり 4800 名を超える事故一報を受け、自らも山岳遭難救助活動に携わってきた東京都勤労者山岳連盟救助隊副隊長が語ります。

2020 年 11 月 14 日（土）13：00～17：00

「神田明神ホール」（東京都千代田区）

1300 年の歴史をもつ江戸総鎮守・神田明神  
境内にできた神田明神文化交流館の 2 階

参加費 1,000 円

（先着 200 名 申込方法は後日お知らせします）



## 日本勤労者山岳連盟 創立 60 周年記念レセプション

2020 年 11 月 14 日（土）18：00～20：00

「ホテル東京ガーデンパレス」（東京都文京区） JR 御茶ノ水駅から徒歩 5 分

参加費 10,000 円（記念講演会の参加費と記念品代を含む）

## 県連予定表

7月		会議・イベント
日付	曜日	
1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	役員会 19:00~ @県連事務所
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	理事会 19:00~ @船橋西部公民館
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	海の日
24	金	体育の日
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

8月		会議・イベント
日付	曜日	
1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	山の日
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	



### 事故発生時の連絡先 一か月以内、全国・県連両方に！

#### ①全国連盟事務局へメールまたはファクス

メール： jwaf@jwaf.jp

ファクス： 03-3235-4324

#### ②県連教育遣対委員会にメールまたはファクス

メール： itou2385@yahoo.co.jp (伊東)

ファクス： 043-271-4704 (岡田)

### 連盟費の振込先はこちら！

郵便振替口座 00160-3-0481509

千葉県勤労者山岳連盟

発行者： 千葉県勤労者山岳連盟

発行責任者： 広木国昭

住所： 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18 レジデンス幕張台 101号室

電話： 043-306-1190

E-mail： rousanchiba@grape.plala.or.jp

HP： <https://www.cwaf.jp>

### 県連活動を再開します。

- ・ 3月に定時総会を中止して以来全ての活動を自粛していました。今回、自粛解除を受けて再開します。（予定表参照）
- ・ 8月は、例年通りお休みします。県連理事・各委員は思いきり夏山を満喫して下さい。ただし、コロナ対策を十分にお願します。
- ・ 県連活動を再開し、後半の活動スムーズに実施するために協力をお願いします。まず、幾つかの報告の提出をお願いします。県連活動の基本となる報告です。